

輸入F1飼料用トウモロコシの 優良品種「33J24」「KD640」

福島県畜産試験場 草地飼料部
平成15年度畜産試験場成績概要
分類コード 08-02-01000000

部門名 飼料作物－飼料作物－品種
担当名 大槻健治・柳田和弘・矢内清恭・佐藤茂次

I 新技術の解説

1 要旨

飼料用トウモロコシの優良品種として新たに「33J24」、「KD640」の2品種が選定された。

優良品種の選定方法については、「福島県優良品種(輸入F1サイレージ用トウモロコシ)総合評価基準」(平成15年改訂)に基づき、3カ年の平均成績を評点化して、80点以上かつDランクがないことを条件とした。

- (1) 33J24の特性:黄熟期がNS68並みの早生タイプ(表1)
耐倒伏性はやや劣る(表1)
すす紋病、ごま葉枯病、根腐病に強い(表2)
標準品種より多収であるが、乾雌穂重割合は低い(図1)
東北の各県においても乾物収量は標準品種並みかそれ以上(表3)
- (2) KD640の特性:黄熟期がNS68並みの早生タイプ(表1)
耐倒伏性に優れる(表1)
すす紋病、ごま葉枯病、黒穂病、根腐病に強い(表2)
標準品種より多収であるが、乾雌穂重割合は低い(図1)
東北の各県においても乾物収量は標準品種並みかそれ以上(表3)

2 期待される効果

飼料作物の収量向上及び耐病性向上による安定生産が期待できる。

3 適用範囲

標高500m以下の飼料用トウモロコシ一熟作地帯

4 普及上の留意点

- (1) 播種量:7,000本/10a程度
- (2) 適期播種を心がけ、病害発生や倒伏がおこらないよう栽植密度を守る。特に33J24は耐倒伏性にやや劣るため密植は避ける。
- (3) 標準品種と比較して紋枯れ病にやや弱いため、多発地域での栽培は避ける。

II 具体的データ等

表1 生育特性(3年間平均)

検定品種	生育日数(日)				稈長 (cm)	着穂穂高 比率(%)	倒伏率 (%)	折損 (%)
	播種～出芽	出芽～絹糸	絹糸～黄熟	出芽～黄熟				
33J24	10	75	50	135	271.8	44.8	3.2	13.9
KD640	9	76	49	135	284.7	44.0	1.2	11.8
標準品種								
NS105	10	71	48	129	265.5	40.4	3.2	9.5
NS68	10	74	49	133	276.0	46.5	0.0	13.1
標準品種平均	10	73	49	131	270.7	43.5	1.6	11.3

表2 病害発生程度(3年間平均)

検定品種	すす紋病 (1～9)*	ごま葉枯病 (1～9)*	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	スジ萎縮病 (%)	紋枯病 (%)	さび病 (%)
33J24	1.5	1.8	2.0	3.2	0.0	23.0	0.0
KD640	1.7	1.3	0.8	0.8	0.0	25.6	0.0
標準品種							
NS105	1.8	2.0	0.4	9.5	0.0	20.6	0.0
NS68	1.8	2.0	2.4	4.8	0.0	19.9	0.0
標準品種平均	1.8	2.0	1.4	7.2	0.0	20.2	0.0

※：病害が見られないものを1、甚だしいものを9として表示

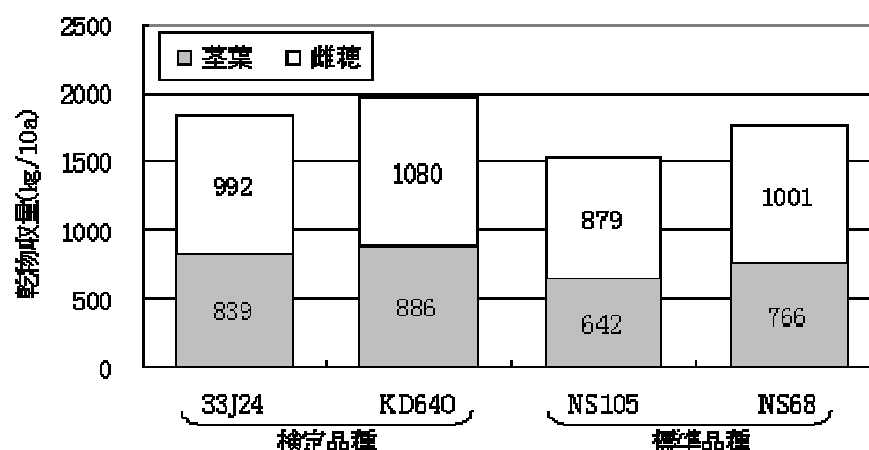


図1 乾物収量(3年間平均)

表3 東北地域優良品種選定ネットワークにおける3カ年の平均成績

	33J24(RM112)			KD640(RM114) ^{※1}		
	乾物収量 (kg/10a)	対標準品種比率(%) ^{※2}	セシリア	乾物収量 (kg/10a)	対標準品種比率(%) ^{※2}	セシリア
青森県	1,642	102	99	1,619	99	96
岩手県	1,984	114	104	1,866	108	101
秋田県	2,005	105	98	1,964	109	102
宮城県	1,565	105	108	1,646	118	114
山形県	2,041	108	103	1,986	100	103
福島県	1,831	101	109	1,965	108	117

※1: 福島県:3カ年平均、福島県以外:2カ年平均

※2: ネットワーク標準品種である「36B08(RM106)」および「セシリア(RM115)」と比較

Ⅲ その他

1 執筆者

大槻健治、依田浩文

2 主な参考文献・資料

なし